

令和7年度 小平市立上水中学校 学校評価計画表

学校教育目標

○自ら考え、進んで実行する人 ○心豊かで思いやりのある人 ○心身ともにたくましい人

目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】

・生徒が毎日楽しく通えて、自分の力を伸ばすことのできる ・教職員が働く喜びと誇りをもてる ・保護者が安心・信頼をもって子どもを通わせることのできる ・学校にかかわる人たちの期待に応えられる学校

【目指す児童・生徒像】

・問題解決や自己表現、他者への共感等の力をもった生徒 よりよい人生や社会の実現に向けて、他者を理解し、協働する力をもった生徒基本的な生活習慣が身に付いた、心身共に健康な生徒
 ・困難や逆境に出会っても折れない心のしなやかさや回復する心の強さをもった生徒

【目指す教員像】

・よりよい教育活動について考え、行動できる ・生徒一人一人をいつくしみ、それぞれの良さを認め伸ばす ・教職員同士、地域・保護者とも力を合わせて教育活動に取り組み、成果を上げることが出来る教職員
 ・成熟した社会人として生徒の範となり、教育公務員としての自覚をもった行動ができる教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題

- ・生徒の主体的な学習を意識した授業の流れが定着が進んだほか、対話的な学習活動やICTの活用も進み、学力の向上につながる基盤づくりを行うことができた。
- ・教育相談活動の充実を図ることで、生徒の小さな心情の変化に気づき、教職員間で情報共有を進めることで迅速な対応をすることができた。
- ・校務のDX化を進め、業務の改善や削減を進め、一定の成果はあげられたが、働き方改革をさらに進めることは引き続きの課題である。

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標		成果指標
学力向上	「予測困難な時代」を生き抜くために必要な学力を身に付けさせる	学習の場面において「自ら課題を立て解決を図る」力を身に付けさせる	生徒が自ら課題を立てて解決を図り、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けられるような支援・指導に向けた授業改善を進める。	4 授業で探究的な学習の場面があった教員 100%	4 年度末の各教科の「主体的に学習に取り組む態度」の評価について A評価が80%以上	
				3 授業で探究的な学習の場面があった教員 90~99%	3 同 A評価が70%以上	
		他と協働して課題の解決を図る意欲と能力を身に付けさせる	各教科、領域の学習の場においてたと協働しながら解決を図ろうとする力を身に付けられるよう計画的に指導する。	2 授業で探究的な学習の場面があった教員 80~89%	2 同 A評価が60%以上	
				1 授業で探究的な学習の場面があった教員 80%未満	1 同 A評価が60%未満	
(いじめ防止)健全育成	生徒の人権意識の定着を図る	各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の指導を通じ、自尊感情を高め、差別意識を生まない人権教育を推進する	4 授業で協働的な学習の場面があった教員 100%	4 「人と考えを交流するのが好き」自己評価80%以上		
			3 授業で協働的な学習の場面があった教員 90~99%	3 「人と考えを交流するのが好き」自己評価70%以上		
	不登校の未然防止と発生率の低下を進める	日常的に情報収集、共有に努め、生徒の状況を捉えて未然防止に努めると共に、不登校、登校渋りの生徒への支援を進め学校復帰しやすい心理的な環境を整える	2 授業で協働的な学習の場面があった教員 80~89%	2 「人と考えを交流するのが好き」自己評価60%以上		
			1 授業で協働的な学習の場面があった教員 80%未満	1 「人と考えを交流するのが好き」自己評価60%未満		
業務改善・働き方改革	教育のDX化を推進する	様々な機器やデジタル機能を活用した学習指導の改善を進めるとともに校務の効率化・省力化を推進する	4 人権に関わる教科等の指導回数 各学年6回以上	4 いじめ等人権意識に欠ける問題行動 0件		
			3 人権に関わる教科等の指導回数 各学年4回以上	3 いじめ等人権意識に欠ける問題行動 1~4件		
	教職員の心身の健康の確保を図る	教職員の心身の健康を重視し、働き方改革を進めるほか、相談機関の活用等、適切な支援を受けられる体制を作る	2 人権に関わる教科等の指導回数 各学年2回以上	2 いじめ等人権意識に欠ける問題行動 5~9件		
			1 人権に関わる教科等の指導回数 各学年1回以下	1 いじめ等人権意識に欠ける問題行動 10件以上		
特色ある教育活動	生徒の読書量の増加を進める	読書推進を校風として定着できるよう、保護者・地域とも連携しながら様々な取り組みを進める。	4 不登校傾向の生徒への具体的働きかけ20件以上	4 年度末に不登校である生徒 4%未満		
			3 不登校傾向の生徒への具体的働きかけ15件以上	3 年度末に不登校である生徒 5%未満		
	学校図書館の積極的な活用を進める	教科の学習における学校図書館の活用を進め、生徒の情報活用能力の向上を図る	2 不登校傾向の生徒への具体的働きかけ10件以上	2 年度末に不登校である生徒 6%未満		
			1 不登校傾向の生徒への具体的働きかけ10件未満	1 年度末に不登校である生徒 6%以上		
	教育のDX化を推進する	様々な機器やデジタル機能を活用した学習指導の改善を進めるとともに校務の効率化・省力化を推進する	4 教育のDX化に係る校内研修 5回以上	4 授業でICT環境の活用があった教員 100%		
			3 同 4回	3 授業でICT環境の活用があった教員 90~99%		
	教職員の心身の健康の確保を図る	教職員の心身の健康を重視し、働き方改革を進めるほか、相談機関の活用等、適切な支援を受けられる体制を作る	2 同 3回	2 授業でICT環境の活用があった教員 80~89%		
			1 同 2回以下	1 授業でICT環境の活用があった教員 80%未満		
	生徒の読書量の増加を進める	読書推進を校風として定着できるよう、保護者・地域とも連携しながら様々な取り組みを進める。	4 業務改善事例 6事例以上	4 教員の時間外勤務 月40時間超 0人		
			3 業務改善事例 4事例以上	3 教員の時間外勤務 月40時間超 2人		
	学校図書館の積極的な活用を進める	教科の学習における学校図書館の活用を進め、生徒の情報活用能力の向上を図る	2 業務改善事例 2事例以上	2 教員の時間外勤務 月40時間超 4人		
			1 業務改善事例 2事例未満	1 教員の時間外勤務 月40時間超 4人以上		
	生徒の読書量の増加を進める	読書推進を校風として定着できるよう、保護者・地域とも連携しながら様々な取り組みを進める。	4 読書量増加に向けた具体的な取組 15件以上	4 生徒一人当たりの年間平均読書冊数 50冊以上		
			3 読書量増加に向けた具体的な取組 10件以上	3 生徒一人当たりの年間平均読書冊数 30~49冊		
	学校図書館の積極的な活用を進める	教科の学習における学校図書館の活用を進め、生徒の情報活用能力の向上を図る	2 読書量増加に向けた具体的な取組 5件以上	2 生徒一人当たりの年間平均読書冊数 10~29冊		
			1 読書量増加に向けた具体的な取組 5件未満	1 生徒一人当たりの年間平均読書冊数 10冊未満		
	学校図書館の積極的な活用を進める	教科の学習における学校図書館の活用を進め、生徒の情報活用能力の向上を図る	4 図書を活用した授業事例 20事例以上	4 「図書の活用により学力が伸びた」自己評価80%以上		
			3 図書を活用した授業事例 15事例以上	3 「図書の活用により学力が伸びた」自己評価70%以上		
				2 図書を活用した授業事例 10事例以上	2 「図書の活用により学力が伸びた」自己評価60%以上	
				1 図書を活用した授業事例 10事例以下	1 「図書の活用により学力が伸びた」自己評価60%以下	